

2021 年度SDGs未来都市等提案書(提案様式1)

令和3年2月25日

越前市長 奈良 俊幸

提案全体のタイトル	「生きものと共生し、多様性を認める共生のまち 越前市」 の実現
提案者	福井県 越前市
担当者・連絡先	

1. 全体計画（自治体全体でのSDGsの取組）

1.1 将来ビジョン

(1) 地域の実態

【地域特性】

(概要)

北陸でトップクラスのモノづくりのまちとして発展を続け、観光客入込数では武生中央公園が県内1位となる一方で、人口減少に伴う日本人の労働力不足に直面している。環境調和型農業の推進に取り組む中、「市の鳥」であるコウノトリが2020年に初めて巣立ちするなど、「生きものと共生する越前市」の成果が表れてきた。企業の旺盛な求人背景に外国人市民が増加する中、教育・保育環境の整備、病気や災害時の支援など生活全般にわたる課題が顕在化してきている。

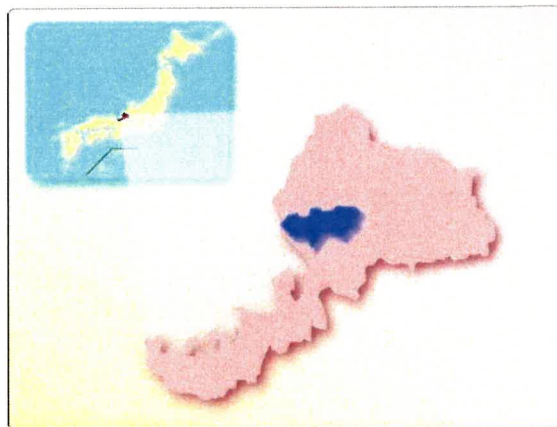
(地理的条件)

越前市は、福井県のほぼ中央に位置し、面積は230.70km²で県面積の約5.5%を、人口は81,524人(2015年国勢調査)で県人口の約10.4%を占めている。

本市は、市域東部に越前中央山地、西部に丹生山地、さらに南部に「越前富士」日野山がそびえるなど400～700m級の山々に囲まれている。

それら緑深い山々からは、県内三大河川の一つである日野川をはじめ吉野瀬川、鞍谷川などが流れ出し、市域中央部に広がる武生盆地にうるおいを与えながら、やがて九頭竜川と合流して日本海へと注いでいる。

武生盆地には、古くから市街地が形成され、市民生活の拠点となっています。これらの市街地に近接して村国山、三里山の独立峰があり、それぞれ市街地から見える身近な里山として多くの市民に親しまれている。気候は、夏は高温多湿、冬は降雪量が1mを超えることもある日本海側特有の気候である。



(人口動態)

(1)近年の人口動態

本市の人口は、2005年の87,742人をピークに減少しているが、2015年に市総合戦略を策定し、人口減少対策を行っている。自然動態については、2005年の本市合併の頃から、死亡数が出生数を上回る自然減に転じた。社会動態については、2015年の市総合戦略策定後の2017年、2018年では社会増に転じた。大きな流れの中で人口減少傾向は避けられないが、住民基本台帳に基づく人口は、国立社会保障・人口問題研究所(以下、「社人研」という。)が公表した推計値や第1期市総合戦略で提示した目標値と比較して、多く推移している。2019年度末時点の本市の総人口で、目標値比+1,110人である。

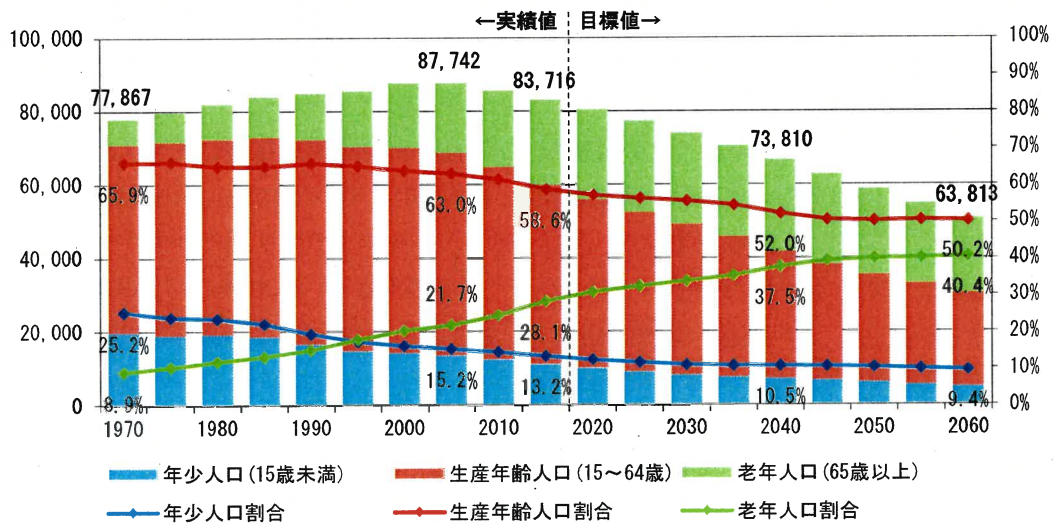
(2)外国人人口の推移

本市の近年の人口増加の主な要因は外国人の転入超過によるものである。2021年1月1日現在の外国人人口は4,906人(前年同月比+792人)であり、市人口に占める割合は約6%となっている。本市の製造品出荷額等の推移と、本市の外国人人口の推移とを重ね合わせると、2000年以降同じような動きを示していることから、外国人人口は製造業の景気動向に影響を受けることが示唆される。

(3)将来人口の目標値

本市は、2019年度末に市人口ビジョン及び市総合戦略を改定した。将来人口については、社人研が2018年3月に公表した推計値を踏まえ、市総合戦略に掲げた諸施策を確実に実行することにより人口減少に歯止めをかけることで、2040年には約73,800人、その施策を継続することで、2060年には約63,800人を目指す。なお、市総合戦略はSDGsの理念や目標等を取り入れており、SDGsの推進により更なる地方創生の深化を目指す。

年齢3区分別の人口推移と将来人口の目標値



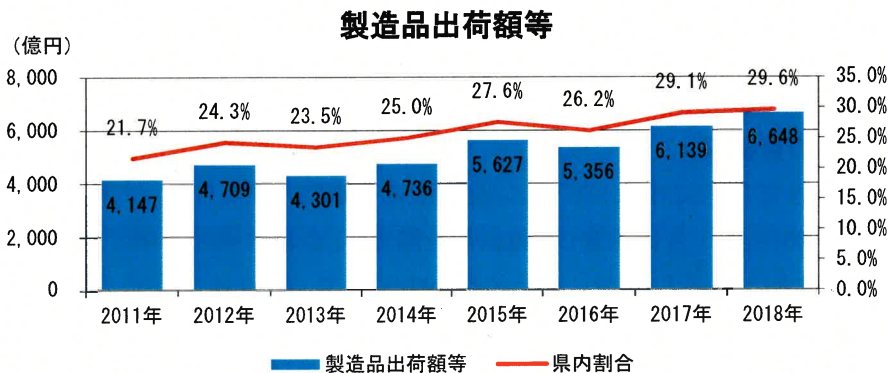
出典:越前市人口ビジョン(2020年度~2060年度)より作成

(産業構造)

本市は、越前和紙や越前打刃物、越前筆筒をはじめとする伝統産業から、電子部品などの先端技術産業に至るまで幅広い産業が集積している。

本市の産業人口を産業別就業者数構成で見ると、2015年10月における国勢調査結果によると第1次産業2.8%、第2次産業42.7%、第3次産業54.5%となっている。本市の製造業は、産業別就業者の特化係数で突出して高く2.0を超えており、市内産業別付加価値額の約6割を占めている。なお、本市の産業中分類を「稼ぐ力」と「雇用力」で分析すると、本市の基盤産業は製造業のうち、「電子部品・デバイス・電子回路製造業」「輸送用機械器具」「繊維工業」である。

本市の製造品出荷額等は、合併後、過去最大を更新し、県内での占有率は全体の3割弱を占めており、北陸3県主要都市の人口1人あたりの製造品出荷額等は739万円と、北陸一となっている(2018年現在)。



出典：工業統計調査、H23 値は経済センサス(H24.2.1)の値、H27 値は経済センサス(H28.6.1)の値

(地域資源)

(1)自然環境

本市では、2009年度から県やJAと連携して環境調和型農業の推進に力を入れた結果、2010年以降は野外コウノリの飛来が続き、県が2011年から本市の白山地区で実施しているコウノリの飼育・繁殖事業では、2015年から2018年までに9羽のコウノリの放鳥が行われた。2017年以降は野外コウノリのペアが産卵を続け、2020年には白山地区で4羽のひなが誕生し、2年連続の繁殖と初めての巣立ちが実現した。このように本市は、豊かな緑や清らかな水など美しい自然環境を誇り、コウノリをシンボルに「生きものと共生する越前市」を目指した成果が、市民との協働により着実に表れてきている。

(2)子育て・教育環境

本市では、子ども一人ひとりの成長と自立を目指し、子ども・子育て支援施策や夢ある子どもの育成など教育・保育環境の充実、武生中央公園にある「だるまちゃん広場」や市民プラザたけふにある「てんぐちゃん広場」などの子どもが学び・楽しめる環境づくりを推進してい

る。2019年には、だるまちゃん広場など再整備された武生中央公園の観光客入込数が県内1位になり、家族連れなどで大いに賑わっている。

【今後取り組む課題】

(経済)

(1)北陸新幹線南越駅(仮称)での新たなまちづくり

南越駅(仮称)周辺のまちづくりについては、2020年3月に策定したまちづくり計画に基づき着実な推進を図っている。今後はデジタルトランスフォーメーションやカーボンニュートラルを推進するため、先端産業ゾーンを中心とした未来創造ゾーンが目指す産業集積や、まちづくり計画の理念である「フォレストシティ&越前市版スマートシティ」の実現に向け、民間企業と市・地元が連携して取り組む官民連携プロジェクトでの推進を検討している。

(2)まちなかの人口減少、連携によるにぎわい創出、購買力の県外流出

まちなかの人口減少や小売業等の事業所数や商品販売額の減少している。まちなかや南越駅(仮称)をはじめとした市内各地、周辺市町との連携によるにぎわい創出が課題である。また、福井県内の購買力が県外に流出していると言われており、持続可能で自立した地域経済が求められている。

(社会)

(3)自然体験などの機会の増加

子どもたちの自然や生きものに触れる機会を創出するため、身近にある田んぼや水路、里山などで、多様な生きもの、自然環境とふれあうことで命のつながりを実感し、里地里山を守る心を育む自然体験や農業体験学習の機会を増やすとともに、内容の充実を図ることが必要である。

(4)外国人市民の増加による教育・保育環境の整備など生活全般にわたる課題の顕在化

日本語を理解できない外国人市民も多く、コミュニケーションが困難なことにより日常生活や教育・保育現場において様々な課題が生じている。また、子どもが母国語を話せないために親とのコミュニケーションギャップが生じているケースもある。

(環境)

(5)コウノトリをシンボルとした取組みの拡大、コウノトリPR館の充実等

本市の西部地域を中心に進めているコウノトリをシンボルとした取組みを市全域に拡大していく必要がある。また、コウノトリが舞う里づくりの取組みの情報発信をするコウノトリPR館の展示内容を定期的に更新し充実を図るとともに、コウノトリが舞う里づくりの活動を進める人材の発掘・育成や団体、企業などとの連携、協働が必要である。

(6)地元農家を応援する地産地消の取組み、食品ロス削減

地産地消の更なる推進のため、消費者が食と農のつながりを学び、理解を深めることにより、地元農家を応援する取組みが必要である。また、まだ食べられるのに捨てられてしまう食品ロスは、食糧問題、環境問題として世界的にも大きな問題となっている。

(2) 2030年のあるべき姿

【全体の概要】

2030年のあるべき姿を、「生きものと共生し、多様性を認める共生のまち 越前市」とし、本市の特色である「コウノトリが舞う里づくり」と「多文化共生の推進」をキーワードに、環境と文化をさらに磨き上げ、新たな魅力を創造し、市民が誇りを持てるまちを市民とともに築いていき、本市のSDGsを推進する。

【2030年のあるべき姿】

Society5.0時代が進む中での生産性向上の支援強化や北陸新幹線南越駅(仮称)開業による駅周辺整備、南越駅周辺の先端産業ゾーンにおける再生可能エネルギーの導入等による脱炭素化に向けた取組みの達成、まちなかや市内各地との連携などにより、産業や観光がより一層振興している。また、生きものと共生するコウノトリが舞う里づくりと多様性を認める多文化共生の推進、持続可能な環境・文化の創造により、「生きものと共生し、多様性を認める共生のまち 越前市」が実現している。

(1) 北陸一のモノづくり都市を目指した産業の活性化

AI・IoT、ビックデータ、ロボットなどの第4次産業革命による Society5.0時代が進む中、企業への伴走型支援に軸足を置いた、中小・小規模事業者の生産性向上の支援強化、企業立地のさらなる誘導などが積極的に進められ、モノづくりの技術振興、商品開発などのイノベーションが推進されている。また、多文化共生を推進する中、日本人市民も外国人市民も共に安心できる住みよいまちづくりを実現させ、外国人市民の定住化が促進している。さらには、南越駅周辺の先端産業ゾーンを中心とした未来創造ゾーンでは、「モノづくり×先端テクノロジー×環境・エネルギー領域」において新たな産業と新たな事業が生み出され、再生可能エネルギーの導入等による脱炭素化に向けた取組み(RE100など)を達成するなどし、北陸一のモノづくり都市が実現している。

(2) 出会いと感動のある観光の振興

新たなまちづくりの舞台としての可能性を秘めた北陸新幹線南越駅(仮称)の開業により、伝統と先端の共生、自然と都市の共生、多文化の共生という地域特性を活かした、地方都市だからこそ可能となる、既成概念にとらわれない自由な発想の未来都市が創造されている。また、にぎわいの場である武生中央公園が子どもたちの創造力や探求心を育む場となり、まちなかが活性化され、市内各地や周辺市町との連携のもと、出会いと感動のある観光がより一層振興している。

(3) コウノトリをシンボルとした学び合いと交流の推進

子どもたちは、郷土の伝統、文化、農産物、自然、人に誇りを持ち、広く社会に貢献できる

人になることを夢に、さまざまな事を元気に学ぶとともに、コウノリや生きものとの共生を通じて、いのちを尊び生きる喜びをもって、いかなる人とも等しくわかちあえる心を持っている。一人ひとりの市民が食と農の創造のために自覚と役割を持ち、学ぶ、交流する、参画する、提案する、地域に貢献するなど、一人ひとりができるところから活動している。

(4) 多様性を認める多文化共生の推進

日本人市民と外国人市民がお互いに国籍や文化の違いを認め合い、共に支え合いながら住み良いまちを築いている。また、「多文化共生社会の実現に向けた啓発」と「子育て教育環境の充実」に当たっては、地域はもとより、市国際交流協会、外国人雇用等企业、大学、市民団体など様々な主体と連携・協働を図っている。こうして、「郷土への愛着をもって共に創り上げる住み良いまち 越前市」が実現している。

(5) 生きものと共生するコウノリが舞う里づくり

私たちの食とそれを支える農の大切さを認識し、持続可能な社会の実現に向けて長期的な視点で行動することにより、豊かな自然の恵みを得て、多様な生きものと共生しながら、元気で豊かに暮らしている。私たちの行動が、農業・農村の活性化と自然環境との調和につながることを認識し、次世代の子どもたちが自信と誇りをもって暮らし続けている。



(6) 地球的視野に立った環境に優しい生活文化の創造

農業体験や農村体験を通じ、農業者、子どもたち、まちの人々が農業を楽しみながら、生産者と消費者との交流が行われ、地場産農産物についての良さを味わい、理解を深めている。越前市ブランドの農産物や加工品が市内の農産物直売所や地産地消推進の店、道の駅、商店など、さまざまな場所で販売され、多くの市民や観光客などが買い求め、良さを味わっているほか、食品ロス削減について、消費者や事業者などがそれぞれの立場で主体的に取り組んでいる。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)

北陸一のモノづくり都市を目指した産業の活性化、出会いと感動のある観光の振興



ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 9, 2	指標: 製造品出荷額等の県内比率	
	現在(2018年): 29.6%	2030年: 35.0%
 8, 9	指標: 観光客入込数	
	現在(2019年度): 308万人	2030年: 350万人

北陸一のモノづくり都市を目指した産業の活性化を実現するため、既存産業・企業の自立化と持続的発展の促進・支援、創業の促進とチャレンジする風土づくり、企業立地の促進と人材の確保、産力強化のための支援体制の構築、工芸の里構想の推進と伝統産業の活性化の各種施策に取り組む。さらには、環境・エネルギー領域での事業創出により、持続可能な経済(成長領域の企業立地・産業集積)と持続可能な環境(脱炭素化)を両立し、再生可能エネルギーを核としたオープンイノベーションを推進する。

また、出会いと感動のある観光の振興を実現するため、本市の観光コンセプトを「手仕事のまち、ニッポンの越前市」とし、手仕事の体験、利便性の向上、広域連携の推進をテーマに、北陸新幹線南越駅(仮称)開業に向け、観光資源の磨き上げや伝統産業を活用した産業観光の推進、インバウンド対策、近隣市町との連携強化などに取り組む。

(社会)

コウノトリをシンボルとした学び合いと交流の推進、多様性を認める多文化共生の推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 12, 8	指標: 保育園等の環境学習実施率	
	現在(2019年度): 100%	2030年: 100%
 10, 2	指標: 多文化共生事業への参加者数	
	現在(2019年度): 9,025人	2030年: 9,000人



コウノトリをシンボルとした学び合いと交流の推進を実現するため、農村の資源を活かしコ

ウノトリをシンボルとした交流活動の推進として、コウノトリを題材とした環境教育やいのちを大切に学ぶ、保育園・認定こども園などにおける自然環境学習、農業・農村体験交流の展開、学習の場としての活用などに取り組む。

また、多様性を認める多文化共生の推進を実現するため、国籍や文化の違いを超えて、外国人市民も日本人市民も同じ地域の一員として住み良いまちづくりを目指し、コミュニケーション支援、生活支援、多文化共生の地域づくり、地域活性化やグローバル化への貢献に取り組む。

(環境)

生きものと共生するコウノトリが舞う里づくり、地球的視野に立った環境に優しい生活文化の創造

ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 15, 4	指標:コウノトリPR館来場者数	
	現在(2019年度): 3,139人	2030年: 7,000人
 12, 5	指標:家庭系ごみ排出量(市民1人1日当たりのごみ排出量)	
	現在(2019年度): 562g/人・日	2030年: 562g/人・日

生きものと共生するコウノトリが舞う里づくりを実現するため、持続可能な食・農・環境・地域を目指し、農村景観の保全、里地里山の保全再生、コウノトリをシンボルとした多様な実施主体と連携した環境保全活動などに取り組む。

また、地球的視野に立った環境に優しい生活文化の創造を実現するため、家庭や学校、地域における食育の推進、食品ロス削減のための啓発、循環型社会の実現に向けた意識啓発などに取り組む。また、「和」「旬」「地」を実感する食生活実践の啓発、学校給食等への供給推進、地場産農産物の利用促進などの地産地消の推進に取り組む。

1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1)自治体SDGsの推進に資する取組

2030年のあるべき姿の実現、優先的に取り上げるゴール・ターゲットの達成に向けて、今後3年間に先導的に進める取組みの概要を、下表のとおり整理した。

	課題	取組み
①経済	産業・交流都市の創造	1 産業の活性化による雇用創出と定住化促進 2 南越駅(仮称)周辺の整備等による交流の推進 3 まちなか等のにぎわい創出
②社会	共生に向けた教育・啓発	1 自然環境学習やいのちを大切にする学びの推進 2 コウノトリをシンボルとした交流活動の推進 3 ダイバーシティや多文化共生社会の実現に向けた啓発
③環境	持続可能な環境・文化の創造	1 農村景観の保全と里地里山の保全再生 2 コウノトリが舞う里づくりの推進 3 食育や地産地消の推進、エシカル消費の推進

①(経済)産業・交流都市の創造		
ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 9, 2	指標: 製造品出荷額等の県内比率	
	現在(2018年): 29.6%	2023年: 31.0%
 8, 9	指標: 観光客入込数	
	現在(2019年度): 308万人	2023年: 350万人

①-1 産業の活性化による雇用創出と定住化促進

- ・企業誘致事業**
 市産業活性化プランに基づき、製造業を中心とした企業立地及び立地企業の設備投資を促し、企業の成長・持続的発展を支援することで、市の産業基盤を強固なものとし、また雇用創出につなげる。また、「アタック100」による企業訪問を積極的に実施し、地域の強み(立地環境の良さ等)や支援制度を周知し、新規投資等を促進する。
- ・UIJターン就職奨励金事業**
 市総合戦略の一環として、福井県外から移住(転入)して、市内の企業への就職者や創業者に奨励金を交付して、市内でのUIJターン者の雇用促進と定住化促進を図る。
- ・各種住宅支援事業**
 働く世代(新婚・子育て世帯を含む)に対する住宅取得費用等の支援を行い、市内への定住を奨励する。企業等に対し、住宅支援制度の周知を行いつつ、建設関係事業者や金融機関への周知もあわせて行う。また、市内不動産情報をウェブサイト「越前市おうちナビ」にリンクを貼り、移住希望者と市内企業向けに情報提供する。

①-2 南越駅(仮称)周辺の整備等による交流の推進

- ・南越駅周辺まちづくり事業**
 2023年春の北陸新幹線南越駅(仮称)開業に合わせ、本市のみならず丹南地域・福井県・北陸地方の新たな玄関口を創出する。駅周辺の小規模乱開発を防ぐための開発ルールやまちづくりの手順となる開発プログラムの検討、エリアマネジメント組織の運営などを行い、開発と保全の適切な誘導を図る。
- ・北陸新幹線南越駅周辺整備事業**
 北陸新幹線の金沢～敦賀間の開業に向けた、南越駅周辺整備に関し、駅西交通広場、パーク・アンド・ライド駐車場、周回道路、多目的広場、南アクセス道路の整備を行う。
- ・観光推進事業**
 新幹線開業時の観光客が移動しやすい二次交通の充実、丹南エリアの観光施設の紹

介や観光情報を提供する道の駅の整備と観光案内所等の機能の充実などに取り組む。インバウンド事業では、「越前ブランド」の浸透を図り、伝統工芸品の新規販路開拓や訪日外国人入込数を増加させ、域外からの消費額を拡大させる。また、伝統工芸品の海外販路開拓や、訪日外国人誘客に係る持続可能な体制を構築する。

①-3 まちなか等のにぎわい創出

・中心市街地活性化事業

「まちの顔づくり」「暮らしの再生」「にぎわいの再生」を目標に、まちなか商業にぎわい支援、商店の利用・販売促進、空家・空地・空き店舗の調査や情報提供、利活用等を行うほか、地域おこし協力隊によるまちなかの活性化を図る。

・武生中央公園魅力向上事業(大型遊具)



南越駅(仮称)駅舎デザインコンセプトである「コウノリ」と、絵本「コウノリのコウちゃん」をモチーフにした武生中央公園「コウノリ広場」を結び付け、本市が取り組む自然との共生をテーマにコウノリ広場を再整備し、中心市街地の活性化を図るとともに武生中央公園の回遊性をさらに高め、公園の魅力向上を図る。

・武生中央公園整備事業

武生中央公園のだるまちゃん広場ややパピプペポー広場等にある公園施設の改修や維持管理を行うことで、利用者の安全安心及び利便性の向上を確保する。

・たけふ菊人形事業



市の観光の核であり、菊文化の継承となる事業である「たけふ菊人形」において、隣接するだるまちゃん広場を活用し、菊人形や菊花展示、遊具、イベントを充実し、誘客を促進する。

②(社会)共生に向けた教育・啓発		
ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 12, 8	指標: 保育園等の環境学習実施率	
	現在(2019年度): 100%	2023年: 100%
 10, 2	指標: 多文化共生事業への参加者数	
	現在(2019年度): 9,025人	2023年: 9,000人
<p>②-1 自然環境学習やいのちを大切にすの学びの推進</p> <p>・環境教育事業</p> <p>自ら環境のことを考え行動する市民を養成するため、幼稚園、保育園、認定こども園、小学校などで環境学習会をはじめ、市民を対象にした市政出前講座を実施する。</p> <p>②-2 コウノトリをシンボルとした交流活動の推進</p> <p>・農村活性化推進事業</p> <p>事業企画等により人を呼び込み、地域資源の活用や交流などを通して農村地域の活性化を図る。また、農村地域における受け入れ態勢の整備を支援する。現在進められている、食と農に関する体験に、伝統産業や自然体験等を加えた形のグリーンツーリズムを一層推進するため、市内のグリーンツーリズム推進団体を支援しながら、農家民宿の増加や利用促進を図る。</p> <p>・エコビレッジ交流センター管理運営事業</p> <p>良好な環境の保全・創造に資する担い手の育成と環境にやさしい地域づくりを進める拠点及び環境情報の受発信の場として、施設の管理運営に努める。</p> <p>②-3 ダイバーシティや多文化共生社会の実現に向けた啓発</p> <p>・多文化共生推進事業</p> <p>2018年度に策定した市多文化推進プランに基づき、外国人市民も日本人市民も同じ地域の一員として安心して暮らせるよう、日本語教育の推進、多言語による生活情報の提供や地域コミュニティへの参加促進により、地域に根差した多文化共生に取り組む。</p> <p>・外国人市民相談事業</p> <p>外国人市民相談員を配置し、外国人市民相談業務、行政文書等の翻訳業務、外国人相談電話の設置などの相談窓口を充実させる。</p> <p>・外国人児童生徒支援事業</p> <p>帰国・外国人児童生徒への対応のため、日本語基礎指導員などの配置、初期指導教</p>		

室(プレクラス)の活用、アクセスワーカーによる学校と保護者との連携など、学校生活に適応するための支援を行う。日本語の指導や生活文化の違いのアドバイスなど、コロナ禍による外国人の国外からの入国状況などを見極めながら取り組む。

・仁愛大学寄附講座事業

市内大学である仁愛大学において地域社会の活性化及び多文化共生に貢献できる専門知識と実践的なスキルの習得を目標として、県、市、地元企業の支援を得ながらポルトガル語の寄附講座を開講する。

③(環境)持続可能な環境・文化の創造		
ゴール、 ターゲット番号	KPI(任意記載)	
 15, 4	指標:コウノトリPR館来場者数	
	現在(2019年度): 3,139人	2023年: 6,200人
 12, 5	指標:家庭系ごみ排出量(市民1人1日当たりのごみ排出量)	
	現在(2020年3月): 562g/人・日	2023年: 562g/人・日
<p>③-1 農村景観の保全と里地里山の保全再生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境調和型農業推進事業 環境に配慮した安全で良質な農産物の生産振興を推進し、かつ、地球温暖化防止及び生物多様性の保全の取組みに対し支援を行う。 ・中山間地域直接支払事業 農業生産条件の不利な中山間地域などにおいて、農業生産活動継続を支援し、多面的機能の維持や地域活性化を支援する。 ・農作物鳥獣害被害防止対策推進事業 鳥獣による農作物被害防止のため、防護柵、電気柵などの設置に助成を行い、農作物被害の減少に努める。 ・農地・水保全管理支払交付金事業 地域共同で行う農地・水路等の資源の日常管理と農村環境の向上のための活動を支援する。 ・林業負担金事業 国営・県営・各種団体の事業に対する負担を行い、国土保全、森林の保全へ向け林業の集約化と、担い手の育成、生産性の向上を目指す。 <p>③-2 コウノトリが舞う里づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コウノトリが舞う里づくり事業 コウノトリを生物多様性や自然再生のシンボルとして位置付け、コウノトリが野外定着できるような生物多様性豊かな地域にするために、コウノトリが舞う里づくりの推進を図る。 ・農村環境改善センター管理事業 農村環境改善センターである「しらやまいこい館」「服間改善センター」「月尾サブセンター」の施設管理運営について、指定管理者制度を利用して、施設の効用を最大限に発揮し、利用者サービスの向上と経費の縮減を図る。また、利用者が安全に快適に利用できるように施設の整備を行う。 		

・林業施設管理事業

林業施設である「金華山グリーンランド」「池ノ上森林スポーツ林道」「ハツ杉森林学習センター」「月尾山村広場」の維持管理を行う。潤いのある緑豊かな森林体験環境を確保し、森林の豊かさと癒しを実感できる市民生活を実現する。

③-3 食育や地産地消の推進、エシカル消費の推進

・食育・地産地消推進事業

食生活改善推進員や県の食育リーダー、食育推進団体、企業などと連携し、学校や家庭、地域などにおける食育事業を推進する。また、まるごと食の感謝祭の開催などを通じて、食育推進団体による食の大切さの啓発のなどのほか、生産者との交流を通じて、消費者の食育や地産地消に対する意識向上を図る。地産地消推進の店認定制度を活用し、生産者と消費者の橋渡しを担う店舗などを支援する。

・ごみ減量化推進事業

ごみの適切な分別・排出を市民に周知啓発するとともに、食品ロスの削減や「おいしいえちぜん食べきり運動」などによる啓発、古紙類・雑がみの再資源化を推進し、循環型社会の構築に取り組む。

・地球温暖化防止対策事業

温暖化防止のための行動選択の啓発や、再生可能エネルギーの活用・省エネルギー化の推進など温室効果ガスの排出抑制に取り組む。

・越前発いのちを育む米飯給食推進事業

越前市産コシヒカリ特別栽培米等(減農薬地場産食材)を使用した学校給食を児童生徒に年間を通して提供するとともに、それらを教材とした食に関する学習を、6月の食育月間、11月の地場産給食、2月のふるさとの日の給食提供時に実施し、地域の農林水産業や食文化への理解を深め、児童生徒にふるさとを誇りに思う心を育む。

(2)情報発信

(域内向け)

市民(外国人市民含む)、市内団体・大学・企業等によるコウノトリが舞う里づくりや武生中央公園のにぎわい創出、多文化共生の推進に関する情報発信。

(域外向け(国内))

コウノトリが舞う里づくり大作戦やたけふ菊人形による情報発信。

(海外向け)

なし

(3)全体計画の普及展開性

(他の地域への普及展開性)

生きものや外国人市民との共生の課題は、他自治体でも共通し、広く展開できる。

1.3 推進体制

(1) 各種計画への反映

2019年度は、計画の改定期を迎えた市食と農の創造ビジョンや市産業活性化プラン、市教育振興ビジョンなどで、SDGsの理念や目標など、整合を図りながら取り入れてきた。2020年度以降についても、策定・改定中の計画にSDGsの趣旨を反映し、越前市SDGs推進を促進する。

1. 越前市総合計画

越前市総合計画において、基本理念、重点目標及び将来像を定め、将来像である「元気な自立都市 越前」を実現するための5本のまちづくりの柱を「将来への羅針盤」として各種政策を位置付け、目標やターゲット、評価指標を明確にして推進している。市総合計画には、SDGsにおける17の全ての目標が盛り込まれ、民間企業や各種団体、NPO、市民等の連携を図りながら、「自立」と「協働」の基本理念のもとその実現に向けて取り組んでおり、市総合計画の推進により、SDGsの達成に取り組むとしている。また、実施計画にあたる実践プログラム(3箇年計画で毎年度ローリング)の数値目標を設定する際は、SDGsの指標の考えを取り入れている。

2. 越前市総合戦略

「女性が輝くモノづくりのまち～子育て・教育環境日本一～」を本市の目指す姿に据え、5本の基本目標に基づく越前市総合戦略を2015年11月に策定した。2019年度に改定する際に、市総合戦略の基本目標及び政策をSDGsのゴールと対応付け、SDGsの理念や目標等を取り入れたことで、地方創生の深化と本市のイメージアップに繋げている。

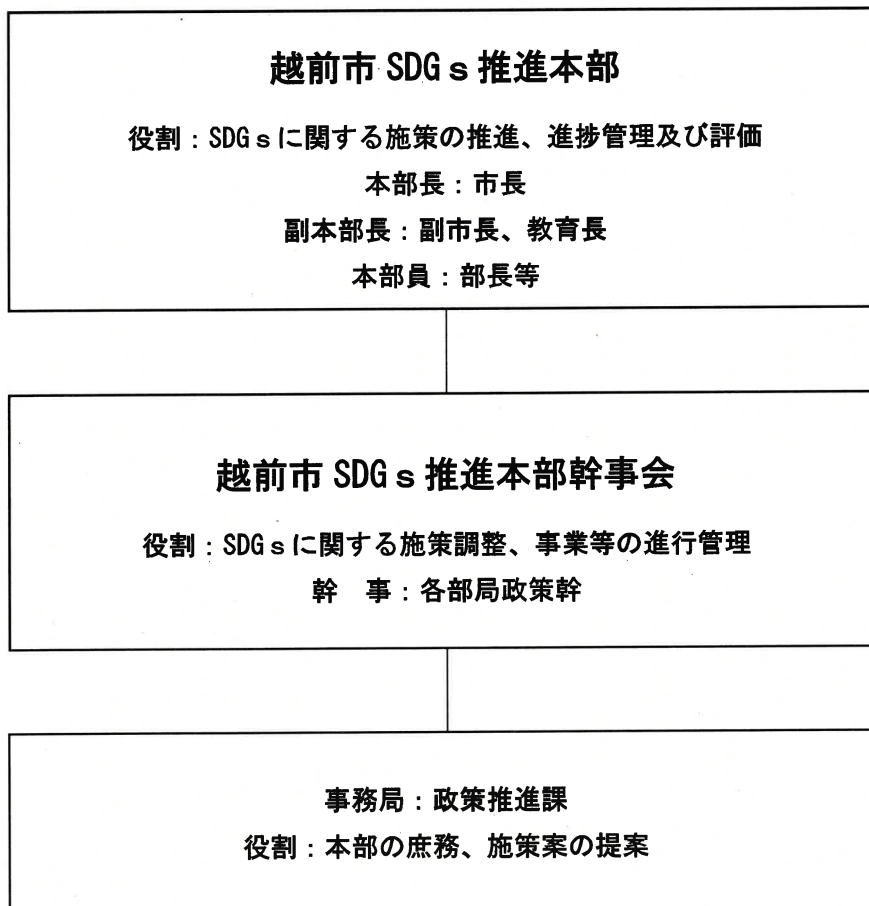
3. その他

計画期間が2020年度以降を始期とする各種計画について、順次SDGsの視点を取り入れた計画として策定・改定していく。

(2) 行政体内部の執行体制

本市では、2021年1月に、越前市SDGs推進本部を設置した。本市SDGsを全庁体制で推進していくため、市長を本部長、副市長及び教育長を副本部長とし、部長会議の構成員を本部員とする。また、幹事会として、政策推進課長を幹事長、企画会議の構成員(各局政策幹)を幹事とし、本部を補佐する。

【体制のイメージ】



(3)ステークホルダーとの連携

1. 域内外の主体

包括連携協定の締結事業所や市内団体・大学・企業等

2. 国内の自治体

兵庫県豊岡市を始めコウノリの放鳥や野外定着などを推進する自治体、外国人市民が増加している自治体

3. 海外の主体

なし

(4)自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

本取組みを通して、福井県が登録を進めている「福井県 SDGsパートナーシップ会議」の普及啓発を事業所向けに行う。

2. 自治体SDGsモデル事業（特に注力する先導的取組）

2.1 自治体SDGsモデル事業での取組提案

(1) 課題・目標設定と取組の概要

(自治体SDGsモデル事業名)

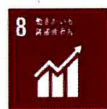
共生のまち越前市～共感と愛着に満ちたまちの実現～

(課題・目標設定)

①経済面



ゴール 9
ターゲット9, 2



ゴール 8
ターゲット8, 9



ゴール 11
ターゲット11, 7

②社会面



ゴール 12
ターゲット12, 8



ゴール 10
ターゲット10, 2

③環境面



ゴール 15
ターゲット15, 4



ゴール 12
ターゲット12, 5






ゴール 2
ターゲット2, 4
ターゲット2, 3

(取組概要)

「生きものと共生し、多様性を認める共生のまち 越前市」の実現に向け、これまでの取組みを継承しつつ、中山間地域中心の取組みを市全域へと広げていく。コウトリPR館内外の整備や武生中央公園内施設の再整備による共生に向けた教育・啓発、市内大学と連携した多文化共生の取組み強化などを行い、三側面の好循環を促す。

(2) 三側面の取組

① 経済面の取組「産業・交流都市の創造」

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 9, 2	指標: 製造品出荷額等の県内比率(再掲)	
	現在(2018年): 29.6%	2023年: 31.0%
 8, 9	指標: 観光客入込数(再掲)	
	現在(2019年度): 308万人	2023年: 350万人
 11, 7	指標: 武生中央公園の利用者数	
	現在(2019年度): 147万人	2023年: 157万人

①-1 産業の活性化による雇用創出と定住化促進

- ・企業誘致事業
- ・UIJターン就職奨励金事業
- ・各種住宅支援事業

①-2 南越駅(仮称)周辺の整備等による交流の推進

- ・南越駅周辺まちづくり事業
- ・北陸新幹線南越駅周辺整備事業
- ・観光推進事業





①-3 まちなか等のにぎわい創出

- ・中心市街地活性化事業
- ・武生中央公園魅力向上事業(大型遊具)
- ・武生中央公園整備事業
- ・たけふ菊人形事業

(事業費)

3年間(2021~2023年)総額:5,110,900千円

② 社会面の取組「共生に向けた教育・啓発」

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 12, 8	指標: 保育園等の環境学習実施率(再掲)	
	現在(2019年度): 100%	2023年: 100%
 10, 2	指標: 多文化共生事業への参加者数(再掲)	
	現在(2019年度): 9,025人	2023年: 9,000人
 10, 2	指標: 市国際交流協会の日本語教室(グループ)開催回数	
	現在(2019年度): 267回(累計)	2023年: 340回(累計)
 10, 2	指標: 市国際交流協会の日本語教室(個別・オンライン)開催回数	
	現在(2019年度): 1,064回(累計)	2023年: 2,000回(累計)

②-1 自然環境学習やいのちを大切にする学びの推進

- ・環境教育事業

②-2 コウノトリをシンボルとした交流活動の推進





- ・農村活性化推進事業
- ・エコビレッジ交流センター管理運営事業

②-3 ダイバーシティや多文化共生社会の実現に向けた啓発

- ・多文化共生推進事業
- ・外国人市民相談事業
- ・外国人児童生徒支援事業
- ・仁愛大学寄附講座事業

(事業費)

3年間(2021~2023年)総額:276,167千円

③ 環境面の取組「持続可能な環境・文化の創造」		
ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 15, 4	指標: コウノトリPR館来場者数(再掲)	
	現在(2019年度): 3,139人	2023年: 6,200人
 12, 5	指標: 家庭系ごみ排出量(再掲)	
	現在(2019年度): 562g/人・日	2023年: 562g/人・日
 2, 4	指標: 有機栽培農産物(米、大麦、大豆)の作付面積	
	現在(2019年度): 73ha	2023年: 88ha
 2, 3	指標: まるごと食の感謝祭の来場者数	
	現在(2019年度): 23,000人	2023年: 24,000人

③-1 農村景観の保全と里地里山の保全再生

- ・環境調和型農業推進事業
- ・中山間地域直接支払事業
- ・農作物鳥獣害被害防止対策推進事業
- ・農地・水保全管理支払交付金事業
- ・林業負担金事業

③-2 コウノトリが舞う里づくりの推進

- ・コウノトリが舞う里づくり事業
- ・農村環境改善センター管理事業
- ・林業施設管理事業

③-3 食育や地産地消の推進、エシカル消費の推進

- ・食育・地産地消推進事業
- ・ごみ減量化推進事業
- ・地球温暖化防止対策事業
- ・越前発いのちを育む米飯給食推進事業

(事業費)

3年間(2021~2023年)総額: 1,564,646千円

(3) 三側面をつなぐ統合的取組
(3-1) 統合的取組の事業名(自治体SDGs補助金対象事業)
<p>(統合的取組の事業名) 越前市共生社会推進事業</p> <p>(取組概要) 「コウノトリ」をシンボルとした生きものとの共生をテーマに、コウノトリPR館内外や武生中央公園内施設を再整備し、共生に向けた教育・啓発やにぎわい創出を図る。また、仁愛大学(市内)と連携し、外国人児童生徒に対する母語教育の教育支援体制を整え、異文化を背景に持つ子どもたちに公平で質の高い教育を提供する。</p> <p>(事業費) 3年間(2021～2023年)総額:28,800千円</p> <p>(統合的取組による全体最適化の概要及びその過程における工夫) 次の3事業を自治体SDGsモデル事業の中心に置き、それらに取り組むことにより、経済・社会・環境の三側面の好循環を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▼①コウノトリが舞う里づくり拡大事業 ▼②生きものとの共生に向けた教育・啓発事業 ▼③外国人児童生徒に対する母語教育支援事業

▼①コウノトリが舞う里づくり拡大事業

(概要)市が推進するコウノトリが舞う里づくりを白山・坂口地区から市全域に拡大する。

(内容)本市は、コウノトリを「市の鳥」とし、生物多様性や自然再生のシンボルとして位置づけ、「生きものと共生する越前市」を目指し、2010年度に「越前市コウノトリが舞う里づくり構想」(概ね10年)を、2011年度には「同実施計画」を策定した。また、2012年度にはこの2つを「越前市コウノトリが舞う里づくり戦略」として取りまとめ、事業を展開し取り組んできた。

現在、同戦略は、「市食と農の創造ビジョン」に統合し、同ビジョンのサブタイトルを「持続可能な食・農・環境・地域を目指して」とし、食と農の創造を推進するために、持続可能な開発目標(SDGs)を取り入れ、私たち全ての人々の生活にかけがいのない食・農・環境・地域がよりよいものになり、次世代につないでいけるような持続可能な取組みを目指している。

本市はこの間、2007年度から県やJAと連携して環境調和型農業の推進に力を入れた結果、2010年以降は野外コウノトリの飛来が続き、県が2011年から本市の白山地区で実施しているコウノトリの飼育・繁殖事業では、2015年から2018年までに9羽のコウノトリの放鳥が行われた。2017年以降は野外コウノトリのペアが産卵を続け、2020年には白山地区で4羽のひなが誕生し、2年連続の繁殖と初めての巣立ちが実現した。このように本市は、豊かな緑や清らかな水など美しい自然環境を誇り、コウノトリをシンボルに「生きものと共生する越前市」を目指した成果が、市民との協働により着実に表れてきている。

本事業では、次の3つの取組みを一体的に行うことにより、市全域におけるコウノトリが舞う里づくりを更に拡大し、持続可能な取組みを目指す。

(Ⅰ)里山体験エリアの整備

令和元年度に、コウノトリが舞う里づくりの推進を図るため、しらやまいこい館内のコウノトリPR館をリニューアル整備した。施設内には、コウノトリの剥製やパネル・写真などを展示しており、今回新たに屋外で自然に触れられる「里山体験エリア」を整備する。

【例】築山、ビオトープ、小さな水田、コウノトリの巣塔の原寸大模型 等

(Ⅱ)コウノトリPR館に魅力ある展示物の新設

令和元年度にコウノトリPR館をリニューアルし、展示パネル等の更新やコウノトリ剥製の設置を行った。館内の展示物の中に、里地里山を模したジオラマや、コウノトリや巣を背景に3Dで表示した写真撮影ができるスポット、コウノトリ目線の映像をVRで観ることのできるソフト開発など、屋外の里山体験エリアと繋がる展示や体験ツールを新設する。

(Ⅲ)コウノトリ人工巣塔の新設

現在、越前市内には、コウノトリ人工巣塔が8基ある。本事業では、実際にコウノトリが飛来した地域に新たな人工巣塔1基を設置する。これまで実績のあるコンクリート製の柱に、鋼鉄製の巣台を乗せた形状とする。

次の図は、コウノトリ PR 館内外の整備(I)(II)を示している。

コウノトリが舞う里づくり拡大事業

①屋外で自然に触れられる「里山体験エリア」整備



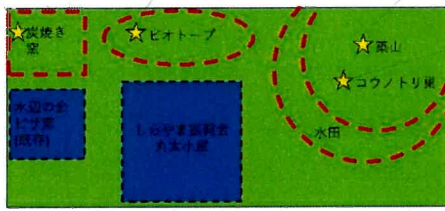

原標き産
・白山地区に伝わる伝統的製法を再現し、産地から炭づくりを体験できる。



ビオトープ
・多様な生きものが生息するビオトープを整備。生きものを観察、採集するなど体験できる。



里山原山
・白山地区を象徴する里山原山を築山・水田を造成し再現する。
・水田では実際に田植えから刈取りの体験ができ、はき場など仕ながらの里山体験施設を整備する。

コウノトリ雲物の墓
・築山の頂上には、コウノトリの雲物大の墓を整備する。
・墓の上に乗り記念撮影のスポットとする。

②コウノトリPR館に魅力ある展示物新設



里山原山ジオラマ
・里山原山を再現したジオラマを作成。



VR体験 写真：エレコムHP
・白山・奥口地区を360°コウノトリ目線の映像を撮影体験できるコンテンツを作成する。



拡張現実(AR)コンテンツ制作 写真：Apple
・実在する展覧にバーチャル増設情報を重ねて表示するコンテンツを作成する。

▼②生きものとの共生に向けた教育・啓発事業

(概要) 武生中央公園をフィールドに心と体を育む木育や自然との共生の啓発を行う。

(内容) 本市の武生中央公園にある「だるまちゃん広場」や「パピプペポー広場」、「コウノトリ広場」は、訪れた子どもたちが創造力や探究心を育み、自ら判断できる子に成長することを願われた、越前市出身の絵本作家・かこさとし氏の監修により整備され、2019年には観光客入込数が県内1位の142万人となった。また、同公園内にある「かみなりちゃんのおうち」では、子どもたちに木のおもちゃに触れ、ぬくもりを感じながら好奇心や創造力を育むような木育環境を提供している。

この武生中央公園において、2021～2023年度には、「コウノトリ広場」にある大型遊具の老朽化対策として、魅力向上を図る事業を実施する。そこでは自然との共生をテーマに、築山を活用し子どもたちが自然の中でたくましく遊び学べる「里山エリア」、植物や水辺で小自然を再現した「里地エリア」、私たちが生活している都市をテーマとした「居住エリア」、コウノトリが子どもたちと一緒に大海原を渡る姿をイメージした「海エリア」をコンセプトに整備する。

また、2021年度には、この公園内の全天候型施設(屋内催事場)を再整備する(菊人形館再整備事業)。ここでは、年間を通して多様な利活用ができる施設として「つどい」、「つながる」をテーマに地域資源を活用し、多様な人が交流できる場とする。整備に当たっては、コウノトリが舞う里づくりや産業、観光などを学べる情報発信の場を整備し、武生中央公園に来園する多くの子どもたちに、市内各地での自然との共生に関する取組みを知ってもらう場となるよう整備する。

本事業では、自然と共生することの大切さを伝えるため、これらの事業と調和させ、次の3つの取組みを一体的に行うことにより、生きものとの共生に向けた教育・啓発を行う。

(Ⅰ) ツリーデッキの設置

「だるまちゃん広場」にある「いずみがもり」に県産材を使用したツリーデッキを設け、樹木を間近で感じるとともに遊び機能を設け子どもたちがワクワク・ドキドキする施設を整備する。

(Ⅱ) 木製遊具購入

木育活動の一環として、「かみなりちゃんのおうち」の木製遊具を購入する。

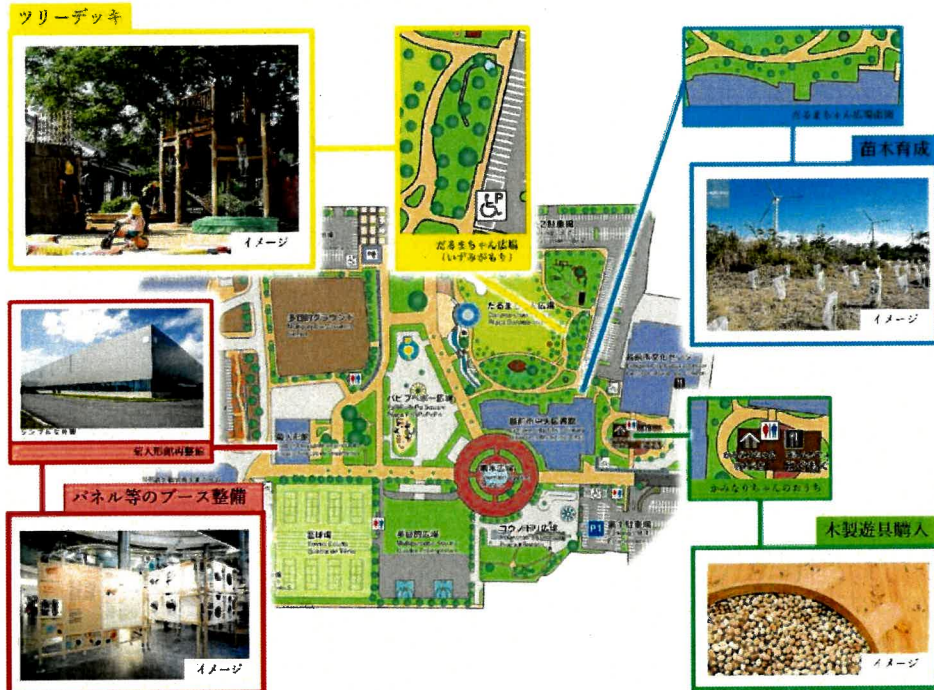
(Ⅲ) パネル等のブース整備

再整備する屋内催事場内に、生きものとの共生に向けた教育・啓発として、コウノトリを始めとしたパネル等のブースを整備する。

なお、2022年度からは、子どもたちに木育体験ができる場として、公園一角で苗木を育てる体験活動を実施し、森林保全の大切さを伝えていく。

こうした木育の取組みや自然との共生の啓発という教育・啓発事業を通して、中山間地域やしらかやまいこ館内のコウトリPR館へ誘導するほか、木材資源の循環や森林環境の健全化についての理解を深め、生きものとの共生に繋げていく。

生きものとの共生に向けた教育・啓発事業



▼③外国人児童生徒に対する母語教育支援事業

(概要) 仁愛大学との連携により、本市の外国人児童生徒に対し、母語教育を支援する。

(内容) 本市にはブラジル人をはじめ 4,906 人もの外国人市民が生活し、市人口に占める割合は約 6%に上り(2021 年 1 月 1 日現在)、市内企業の旺盛な求人を背景に、ブラジル人の一層の増加はもとより、ベトナム人やモンゴル人など外国人市民の多国籍化が進んでいる。今後も外国人労働者の受け入れ拡大が進み、外国人市民のさらなる増加が予想されている。

本市ではこのような状況の中、2018 年度に市多文化共生推進プランを策定し、外国人市民、日本人市民が同じ市民として多様な価値観を認め合い、お互いの理解と尊重のもとに市民、市民団体、企業など各種団体と行政が協働して多文化共生のまちづくりを展開している。

その基本施策であるコミュニケーション支援について、外国人児童生徒に対する日本語教育は、市内の小中学校において体制が整備されているが、日本で育った外国人市民の子どもが母国語を話せないために親とのコミュニケーションギャップが生じているケースもあり、母国語や母国の文化を学ぶ機会の創出が求められている。

しかしながら、教育現場においては、母語教育の必要性は感じているものの、教育体制が整っていないのが現状である。家庭内においても、親子間で母語によるコミュニケーションがなされたとしても、保護者が長時間働いているような場合、十分な教育時間や余力がなく、年齢相応の母語力が育まれることは困難である。

したがって、多くの外国人の子どもは、言語が発達する重要な時期に両方の言語を適正に習得することができない環境に置かれており、学力や言語力の伸び悩みに加え、アイデンティティのゆらぎや自尊感情の形成などが大きな課題となっている。

本事業では、異なる文化を背景に持つ子どもたちが、同じ社会の中で不利な立場に置かれることのないよう、本市の外国人児童生徒に対し、市内大学である仁愛大学との連携により母語教育支援事業を実施する。

(事業イメージ)

- ・回数 月2回程度

- ・対象 小学校1年から6年(低学年が中心)
20人～30人程度

- ・場所 武生西公民館、武生中央公園総合体育館 会議室、市民プラザたけふ等
(ブラジル人の子供が西地区中心に居住しているため)

- ・その他 学生サポーター2人程度

- ・費用 講師謝礼・旅費
サポーター謝礼(仁愛大学の学生2人)
教材費
会場使用料
チラシの作成費用
印刷製本費 など

(3-2)三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等(新たに創出される価値)

(3-2-1)経済⇄環境

(経済→環境)農業の振興による食育や地産地消の推進

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標: 地産地消推進の店の認定店舗総数	
現在(2019年度): 68軒	2023年: 88軒

コウノトリが舞う里づくり拡大事業や生きものとの共生に向けた教育・啓発事業により、コウノトリや木育、自然との共生などをテーマに武生中央公園や市内各地区を整備することで、経済面では、私たちの食とそれを支える農の大切さの理解が進み、農業が振興される。こうしたことが環境面に対しては、食育や地産地消の推進に繋がり、環境に優しい生活を創造するという相乗効果を創出する。

(環境→経済)環境・文化の創造による定住化促進

KPI (経済面における相乗効果等)	
指標: 移住支援による移住者数	
現在(2019年度): 185人	2023年: 140人

コウノトリが舞う里づくり拡大事業により、里山体験エリアの整備やコウノトリPR館に魅力ある展示物を新設することで、環境面では、里地里山の保全再生や生物多様性の保全等への理解が向上する。こうしたことが経済面に対しては、本市の生きものとの共生に向けた取組みに惹かれ、訪れる・交流する・移住するといった移住交流に繋がり、多様な人材の確保という相乗効果を創出する。

(3-2-2) 経済⇄社会

(経済→社会)にぎわい創出や産業振興による学びあいと交流の実現

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: 武生中央公園の利用者数(再掲)	
現在(2019年度): 147万人	2023年: 157万人
指標: 外国人児童生徒に対する母語教室の実施回数	
現在(2019年度): -	2023年: 50回(累計)

生きものとの共生に向けた教育・啓発事業により、ツリーデッキやパネルブースを設置することで、経済面では、武生中央公園に新たな賑わいの場が創出される。こうしたことが社会面に対しては、木育や自然との共生といった教育に繋がり、次世代の子どもたちが自信と誇りをもって暮らすという相乗効果を創出する。

また、外国人児童生徒に対する母語教育支援事業により、母国語や母国の文化を学ぶ機会を創出することで、経済面では、外国人市民が子どもを本市で育てる(=住み続ける)選択をする。こうしたことが社会面に対しては、子どもたち本人の自尊感情の形成のほか、日本人市民も多様な交流と学びあいに繋がり、共に安心して住み良いまちを築くという相乗効果を創出する。

(社会→経済) 共生意識の向上による定住化促進

KPI (経済面における相乗効果等)	
指標: 移住支援による移住者数(再掲)	
現在(2019年度): 185人	2023年: 140人
指標: 住宅取得推進事業のうち外国人への補助件数	
現在(2019年度): -	2023年: 20件(累計)

越前市共生社会推進事業により、社会は「多様である」という理解が進むことで、社会面では、市民が生きものと共生し、多様性を認めるという共生意識が向上される。こうしたことが経済面に対しては、外国人も含め、本市の共生に向けた取組みに惹かれ、訪れる・移住する・定住するといった移住定住に繋がり、多様な人材の確保という相乗効果を創出する。

(3-2-3) 社会⇄環境

(社会→環境) 環境意識の向上による環境活動や担い手の増加

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標: 農家民宿数	
現在(2019年度): 21軒	2023年: 24軒
指標: 里山の森林づくりボランティア参加人数	
現在(2019年度): 300人	2023年: 350人

コウノトリが舞う里づくり拡大事業や生きものとの共生に向けた教育・啓発事業により、農業体験や苗木育成を実施することで、社会面では、豊かな自然の恵みを得て、多様な生きものとの共生しているという環境意識が向上する。こうしたことが環境面に対しては、農業生産者と消費者の実際の交流や、里地里山の保全再生に向けた活動といった環境活動や担い手の増加に繋がり、食と農の創造のための自覚と役割を持つという相乗効果を創出する。

(環境→社会) 良好な自然環境による交流活動の活性化

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: エコビレッジ交流センターを活用した環境学習会参加人数	
現在(2019年度): 3,154人	2023年: 3,500人
指標: 金華山グリーンランド・ハツ杉森林学習センターの利用者数	
現在(2019年度): 20,148人	2023年: 20,000人

コウノトリが舞う里づくり拡大事業により、農業体験やコウノトリ人工巣塔の新設などを実施することで、環境面では、里地里山の保全再生や生物多様性の保全等により、良好な自然環境が保全・創造される。こうしたことが社会面に対しては、良好な自然環境を有する環境教育施設への参加者の増加に繋がり、市民の環境活動や環境問題への積極的な取組みと交流という相乗効果を創出する。

(4)多様なステークホルダーとの連携

(統一的取組)

団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
コウノトリが舞う里づくり推進協議会	統一的取組①コウノトリが舞う里づくり拡大事業における調整・実施等
しらやま振興会	統一的取組①コウノトリが舞う里づくり拡大事業における調整
兵庫県立コウノトリの郷公園	統一的取組①コウノトリが舞う里づくり拡大事業における指導、協力（同協議会アドバイザー）
越前パークス	統一的取組②生きものとの共生に向けた教育・啓発事業における武生中央公園施設管理
加古総合研究所	統一的取組②生きものとの共生に向けた教育・啓発事業における武生中央公園施設監修
仁愛大学	統一的取組③外国人児童生徒に対する母語教育支援事業における調整・実施等

(経済)

団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
越前市産学官金連携ネットワーク有識者会議	市産業活性化プラン推進連携
南越駅周辺まちづくり協議会	土地所有者の意向等の把握（地権者および関係町内の住民で構成）
（独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構	南越駅周辺整備事業における調整・実施等
株式会社 鮮魚丸松	道の駅「南越駅（仮称）」物販飲食等運営事業者
（一社）越前市観光協会	道の駅「南越駅（仮称）」観光案内所委託業者
まちづくり武生㈱	中心市街地活性化事業の連携先

(社会)

団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
坂口地区うららの町づくり振興会	環境教育事業の実施
コウノトリが舞う里づくり推進協議会	生物多様性の大切さの普及啓発（コウノトリが舞う里づくりイベントの実施）
水辺と生き物を守る農家	越前にコウノトリ呼び戻す田んぼファンクラブの実施

と市民の会	ど産地の生産者と消費者の交流活動
福井新聞社	越前にコウノトリ呼び戻す田んぼファンクラブの実施など産地の生産者と消費者の交流活動
水の里しらやま	グリーンツーリズム推進、都市と農村の交流促進、農家レストラン
ロハス越前	グリーンツーリズム推進、都市と農村の交流促進
越前市国際交流協会	日本語教室及び多文化共生事業における調整・実施等、翻訳業務の一部委託
地域自治組織等	地域における多文化共生事業における調整・実施等
外国人雇用等企業	多文化共生事業における調整・周知協力
仁愛大学	仁愛大学ポルトガル語寄附講座の設置に関する協定 (2020-2023年度)
株式会社福井村田製作所	仁愛大学ポルトガル語寄附講座の設置に関する協定 (2020-2023年度)

(環境)

団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
コウノトリが舞う里づくり推進協議会	水田魚道、水田退避溝の整備、休耕田ビオトープの管理等
水辺と生き物を守る農家と市民の会	アベサンショウウオなど希少野生生物の生育地保全活動の促進、保全研修会の開催
コウノトリ見守り隊	コウノトリ繁殖の見守り、行動観察
金華山林業振興組合	指定管理者（金華山グリーンランド）
越前市文化振興・施設管理事業団	指定管理者（ハツ杉森林学習センター）
※固定の特定団体ではない	里山の森林づくりボランティア活動
コウノトリが舞う里づくり推進協議会	コウノトリが舞う里づくり事業における調整・実施等
越前たけふ農業協同組合	特別栽培米インセンティブ制度による買入
福井県、福井県丹南農林総合事務所	特別栽培米の認証、環境に優しい農業の取組み推進、技術指導
水辺と生き物を守る農家と市民の会	越前にコウノトリ呼び戻す田んぼファンクラブの実施など産地の生産者と消費者の交流活動
福井新聞社	越前にコウノトリ呼び戻す田んぼファンクラブの実施など産地の生産者と消費者の交流活動

コウノトリ呼び戻す農法部会	コウノトリ呼び戻す農法米の作付、販売
水の里しらやま	グリーンツーリズム推進、都市と農村の交流促進、農家レストラン
ロハス越前	グリーンツーリズム推進、都市と農村の交流促進
まるごと食の感謝祭実行委員会	食のイベント「まるごと食の感謝祭」の企画運営事業における調整・実施等
地産地消推進の店	地場産食材を活用したメニューの提供、地場産農畜産物や加工品等の販売など
市内小中学校	食の大切さや食と農のつながりを学ぶ農業体験の実施
保育園、認定こども園	子どもの料理体験の実施
地区自治振興会、地区公民館	農業体験、料理教室など食育や地産地消活動の推進、情報発信
食生活改善推進員	健康食ランチバイキングの実施のほか生活習慣病予防の推進、日本型食生活・伝承料理の普及、地場産農産物の利用促進
越前たけふ農業協同組合、株式会社いーの越前	学校給食（コシヒカリ特別栽培米推進事業）における米の供給

(5) 自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

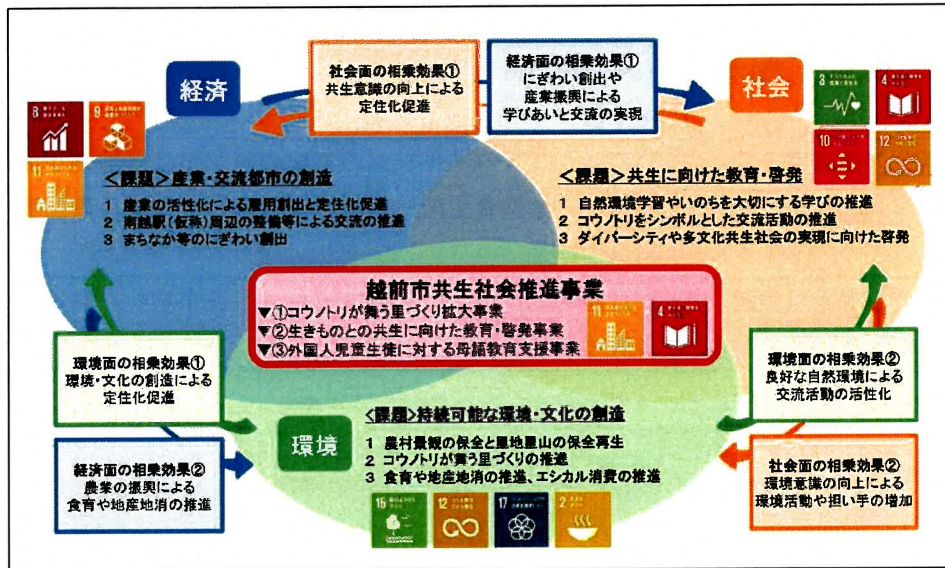
(事業スキーム)

本市の特色である「コウノトリが舞う里づくり」と「多文化共生の推進」をキーワードに市民とともに、本市のSDGsを推進する。

特に、コウノトリが舞う里づくり拡大に向けては、毎年度、様々な取組みを行う中で、市内団体や企業との連携の元、各事業が有機的に繋がるよう実施する。

生きものとの共生に向けた教育・啓発に向けては、多くの家族連れで賑わう武生中央公園に、木育や自然との共生という視点で、学び・楽しめる空間を創出する。

外国人児童生徒に対する母語教育支援に向けては、同じ社会の中で不利な立場に置かれることのないよう、母国の言語や文化を学ぶ機会を創出する。



(将来的な自走に向けた取組)

本市では、特定事業を対象としたふるさと納税募集を、クラウドファンディング形式で実施している。これまでも、コウノトリや武生中央公園などをシンボルとしたプロジェクトを実施しており、多くの方の賛同の下、いずれも目標額を大きく上回る実績を残している。こうした応援の形による資金調達も視野に入れ、自走に向け取り組む。

母語教育支援をはじめとした多文化共生については、地域社会の活性化及び多文化共生に貢献できる専門知識と実践的なスキルを習得した人材の育成を図ることを目的に、外国人市民を多く雇用する市内企業の協力を得ることなどにより、継続性を確保する。

(6) 自治体SDGsモデル事業の普及展開性

(他の地域への普及展開性)

「市の鳥」であるコウノトリをシンボルとした生きものとの共生、コウノトリをモチーフとした都市公園の再整備による共生に向けた教育・啓発及び多くの外国人市民を受け入れることに伴う市内大学と連携した課題解決の取組みは、他自治体にとってモデルとなり得る。

(7) 資金スキーム

(総事業費)

3年間(2021～2023年)総額:6,980,513千円

(千円)

	経済面の取組	社会面の取組	環境面の取組	三側面をつなぐ統合的取組	計
2021年度	2,490,969	91,943	520,640	21,800	3,125,352
2022年度	1,731,091	92,062	522,003	3,500	2,348,656
2023年度	888,840	92,162	522,003	3,500	1,506,505
計	5,110,900	276,167	1,564,646	28,800	6,980,513

(活用予定の支援施策)

支援施策の名称	活用予定年度	活用予定額 (千円)	活用予定の取組の概要
社会資本整備総合交付金 (国土交通省)	2021 ※2022年度以降も申請予定	3,735 ※2022年度以降も申請予定	経済面の取組の各種住宅支援事業に係る部分について、活用予定。
空家対策総合支援事業国庫補助金(国土交通省)	2021 ※2022年度以降も申請予定	1,052 ※2022年度以降も申請予定	経済面の取組の各種住宅支援事業に係る部分について、活用予定。(2021.3申請予定)
地域少子化対策重点推進交付金(内閣府)	2021 ※2022年度以降も申請予定	10,000 ※2022年度以降も申請予定	経済面の取組の各種住宅支援事業に係る部分について、活用予定。(2021.3申請予定)
福井ふるさと広域景観形成事業補助金(福井県)	2021	2,500	経済面の取組の南越駅周辺まちづくり事業に係る部分について、活用予定。(申請済)
社会資本整備総合交付金 (国土交通省)	2021 2022	335,000 276,500	経済面の取組の北陸新幹線南越駅周辺整備事業に係る部分について、活用予定。(申請済)
都市再生整備計画事業 (国土交通省)	2021 2022	669,990 171,000	経済面の取組の北陸新幹線南越駅周辺整備事業に係る部分について、活用予定。(申

			請済)
都市構造再編集中支援事業国庫補助金(国土交通省)	2022 2023	30,000	経済面の取組の武生中央公園魅力向上事業(大型遊具)に係る部分について、活用予定。(申請済)
市町協働による地域みらい応援プロジェクト(福井県)	2021 2022	50,000	経済面の取組の武生中央公園魅力向上事業(大型遊具)に係る部分について、活用予定。(申請済)
都市構造再編集中支援事業補助金(国土交通省)	2021 2022 ※2023年度も申請予定	775 11,100 ※2023年度も申請予定	経済面の取組の武生中央公園整備事業に係る部分について、活用予定。(申請済)
社会資本整備総合交付金(公園長寿命化計画対策支援事業)(国土交通省)	2021 2022 2023	7,100 38,900 3,540	経済面の取組の武生中央公園整備事業に係る部分について、活用予定。(申請済)
外国人受入環境整備交付金(法務省)	2021 2022 2023	5,000 5,000 10,000	社会面の取組の外国人市民相談事業に係る部分について、活用予定。

(民間投資等)

産業・交流都市の創造、共生に向けた教育・啓発、持続可能な環境・文化の創造を推進することにより、今後、民間投資に繋がるような事業展開を目指していく。

(8)スケジュール

	取組名	2021 年度	2022 年度	2023 年度
統合	コウノトリが舞う里づくり拡大事業	(Ⅰ)里山体験エリア整備 (Ⅱ)PR館展示物新設 (Ⅲ)人工巣塔新設	里山体験エリア等の管理・運営	
	生きものとの共生に向けた教育・啓発事業	(Ⅰ)ツリーデッキ設置 (Ⅱ)木製遊具購入 (Ⅲ)パネル等のブース整備	苗木育成	
	外国人児童生徒に対する母語教育支援事業	調整・実施	調整・実施	
経済	企業誘致事業	企業立地や設備投資を支援		
	U/Iターン就職奨励金事業	企業の人材確保支援		
	各種住宅支援事業	各種住宅支援事業の普及展開		
	南越駅周辺まちづくり事業	岩内山視点場整備 道路測量・平面図設計		
	北陸新幹線南越駅周辺整備事業	駅西交通広場・周回道路・多目的広場・P&R駐車場の整備		P&R駐車場の一部整備

	観光推進事業	道の駅「南越駅(仮称)」建設工事 道の駅「南越駅(仮称)」運営計画協議	内装工事・運営準備等	開業・運営開始
	中心市街地活性化事業	中心市街地活性化プランの策定	中心市街地活性化プランの推進	
	武生中央公園魅力向上事業 (大型遊具)	武生中央公園魅力向上事業による大型遊具等の整備		
	武生中央公園整備事業	改修工事等		
	たけふ菊人形事業	たけふ菊人形事業の実施		
社会	環境教育事業	幼稚園・保育園環境学習会や出前講座の実施		
	農村活性化推進事業	グリーンツーリズム強化推進事業(ツアー実施)の委託	グリーンツーリズム強化推進事業(ツアー実施)の委託	
	エコビレッジ交流センター管理運営事業	エコビレッジ交流センターの自主講座の実施及び周知		プランの改定
	多文化共生推進事業	多文化共生推進プランに基づく事業の実施		
	外国人市民相談事業	相談業務の実施		
	外国人児童生徒支援事業	外国人児童生徒支援の実施		
	仁愛大学寄附講座事業	寄附講座の検証 寄附講座の実施	寄附講座の検証	寄附講座の検証

環境	環境調和型農業推進事業	実績見込み検証、支援内容の検討	
		実績見込み検証、支援内容の検討	実績見込み検証、支援内容の検討
	環境に調和した農業の推進、特別栽培米の作付け拡大の推進	事業期間：第2期(2020年度～2024年度)	
	中山間地域直接支払事業	中山間地域における農業生産活動の継続を推進	事業期間：第5期対策(2020年度～2024年度)
	農作物鳥獣害被害防止対策推進事業	鳥獣被害対策実施隊出動・有害鳥獣駆除業務委託の実施	
	農地・水保全管理支払交付金事業	住民による農地維持活動・地域資源の質的向上を図る共同活動・施設の長寿命化活動の支援の実施	
	林業負担金事業	各種協会への負担金の支払い及び森林組合への借入金に係る利息の補給等の実施	
	コウノトリが舞う里づくり事業	コウノトリが舞う里づくり事業の委託	
	農村環境改善センター管理事業	農村環境改善センター施設を関係団体に管理委託を実施	
	林業施設管理事業	林業施設を関係団体に管理委託を実施	
	食育・地産地消推進事業	まるごと食の感謝祭の実施 食育団体の取組み、地産地消推進PR	まるごと食の感謝祭の実施 まるごと食の感謝祭の実施
	ごみ減量化推進事業	食べきり運動の推進及び出前講座での周知	
	地球温暖化防止対策事業	太陽光発電設備設置・電気自動車導入促進補助金の交付	補助制度の見直し
	越前発いのちを育む米飯給食推進事業	越前市産コシヒカリ特別栽培米等の学校給食提供(通年)及び食育学習の実施(6, 11, 2月)	

2021年度SDGs未来都市全体計画提案概要(提案様式2)

提案全体のタイトル:「生きものと共生し、多様性を認める共生のまち 越前市」の実現 提案者名:福井県越前市

全体計画の概要:2030年のあるべき姿を、「生きものと共生し、多様性を認める共生のまち 越前市」とし、本市の特色である「コウノトリが舞う里づくり」と「多文化共生の推進」をキーワードに、環境と文化をさらに磨き上げ、新たな魅力を創造し、市民が誇りを持てるまちを市民とともに築いていき、本市のSDGsを推進する。

1. 将来ビジョン	地域の実態	2030年のあるべき姿	
	<p>北陸でトップクラスのモノづくりのまちとして発展を続け、観光客入込数では武生中央公園が県内1位となる一方で、人口減少に伴う日本人の労働力不足に直面している。環境調和型農業の推進に取り組む中、「市の鳥」であるコウノトリが2020年に初めて巣立ちするなど、「生きものと共生する越前市」の成果が表れてきた。企業の旺盛な求人を背景に外国人市民が増加する中、教育・保育環境の整備、病気や災害時の支援など生活全般にわたる課題が顕在化してきている。</p>	<p>Society5.0時代が進む中での生産性向上の支援強化や北陸新幹線南越駅(仮称)開業による駅周辺整備、南越駅周辺の先端産業ゾーンにおける再生可能エネルギーの導入等による脱炭素化に向けた取組みの達成、まちなかや市内各地との連携などにより、産業や観光がより一層振興している。また、生きものと共生するコウノトリが舞う里づくりと多様性を認める多文化共生の推進、持続可能な環境・文化の創造により、「生きものと共生し、多様性を認める共生のまち 越前市」が実現している。</p>	
	2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット	<p>(経済)北陸一のモノづくり都市を目指した産業の活性化、出会いと感動のある観光の振興 (社会)コウノトリをシンボルとした学び合いと交流の推進、多様性を認める多文化共生の推進 (環境)生きものと共生するコウノトリが舞う里づくり、地球的視野に立った環境に優しい生活文化の創造</p> 	
2. 自治体SDGsの推進に資する取組	自治体SDGsに資する取組	情報発信	普及展開性
	<p>(経済)産業・交流都市の創造 (社会)共生に向けた教育・啓発 (環境)持続可能な環境・文化の創造</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【域内向け】市民(外国人市民含む)、市内団体・大学・企業等によるコウノトリが舞う里づくりや武生中央公園のにぎわい創出、多文化共生の推進に関する情報発信 【域外向け(国内)】コウノトリが舞う里づくり大作戦やたけふ菊人形による情報発信 【海外向け】なし 	<p>・生きものや外国人市民との共生の課題は、他自治体でも共通し、広く展開できる。</p>
3. 推進体制	各種計画への反映	行政体内部の執行体制	
	<p>2019年度は、計画の改定期を迎えた市食と農の創造ビジョンや市産業活性化プラン、市教育振興ビジョンなどで、SDGsの理念や目標など、整合を図りながら取り入れてきた。2020年度以降についても、策定・改定中の計画にSDGsの趣旨を反映し、越前市SDGsを推進する。</p>	<p>越前市SDGs推進本部を設置(2021年1月) 本部:市長を推進本部長、副市長及び教育長を副本部長、部長会議の構成員を本部員とする。</p>	
	自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等	<p>本取組みを通して、福井県が登録を進めている「福井県SDGsパートナーシップ会議」の普及啓発を事業所向けに行う。</p>	

2021年度自治体SDGsモデル事業提案概要(提案様式3)

自治体SDGsモデル事業名: 共生のまち越前市～共感と愛着に満ちたまちの実現～

提案者名: 福井県越前市

取組内容の概要: 「生きものと共生し、多様性を認める共生のまち 越前市」の実現に向け、これまでの取組みを継承しつつ、中山間地域中心の取組みを市全域へと広げていく。コウノトリPR館内外の整備や武生中央公園内施設の再整備による共生に向けた教育・啓発、市内大学と連携した多文化共生の取組み強化などを行い、三側面の好循環を促す。

